

明治廿五年分拾遺

五

0287



朱金

諸 員

集上昇係情と糾成能被ハ 意ヲ以テ
曠日弥久此懸ノ方ヲ設ケルヨリハ寧ロ以テ
三項ノ臨時採用ニ決シテ本年より大ニ
策ト必料ヲ案定ス此乃チ希望情ニ尚
此懸考トシテ方此取及此答也
明治三十二年二月二十七日

横山重隆印

出印第一局第一課長印

四
五
八
三
四
九

[illegible]

[illegible]

あまのあま

步月一徑老竹坡

何處何處有公之文

文者公之文也

公之文也

公之文也

公之文也

公之文也

公之文也

公之文也

公之文也

第百三十三号

現役之限ノ内ニテ長シ先者及
割意ニ長シ者取調書と書シ
旨第一日二九と書シ照会
即ノ別紙書込所ニ書込
長也
明治三十四年五月十日
陸軍大臣官房
陸軍省
陸軍省
陸軍省

0294

文筆ニ長シ事務者ニ充テアルモノ
 一等主帳 九人
 二等主帳 貳拾四人
 三等主帳 叁人
 割烹ノ職ニ長シ割烹ニ充テアルモノ
 一等主帳 四人
 二等主帳 四人
 三等主帳 叁人
 割烹ノ職ニ長スルモ事務者ニ充テアルモノ
 二等主帳 壹人
 文筆ニ長ストモ割烹ノ職ニ長ストモ
 一等主帳 貳人

二等主帳
三等主帳
合計五
式
人
人
人

0296

理反主帳，長無欺德乃第一
錦西照會之熟乃所長之記一通
有之長案各九四四回若此也

順治五年三月二十三日

男爵井上清三郎 臨時司令官 坂

出相茅一深長以爲

又筆長ニ事給者ニ充テアル者	一等主帳 拾七人	二等主帳 拾五人	三等主帳 八人	割息長ニ割息職ニ充テアル者	一等主帳 七人	二等主帳 六人	三等主帳 八人
----------------------	-----------------	-----------------	----------------	----------------------	----------------	----------------	----------------

海軍



三ノ一ノ三

第一課

出羽

土南

主計部勤務主帳等級超過 之義付上申

今般主計部勤務主帳中進級ノ者有之ニ依リ
貳オハ稍ヤ其当ヲ得度得共三等ニ於テハ非常
ニ不足ヲ生シ為メ定負相当ニ配置スル能ハス
又々次級者即チ高等貳等厨夫ノ補充負スラ
目ハ高等ノ在者無之配置上奈何其
才法無之折柄過般上級者ヲ以テ上級補欠
ノ義上申仕度要右者所詮議ニ及バレカ
キ者ヲ以テ局面却テ相成度ニ付テハ超過
主帳ハ直ニ入可為政然ル片ハ同時

0299

貳名、欠負ヲ生シ主計部、事務ハ立
滞ヲ来シ義ト被存候ニ付何ニ力
他ニ方法而決裁相成候様被交比段再應
上申仕候也

明治三十五年十一月十一日

吳鎮守府司令長官ニ奉中由倉 助

海軍大臣ニ奉仁禮景範殿

0300

第一

鶴

主帳

主帳多敷、欠負ニテ配道上手支度ヲ以テ採用
方法及混用、件改正方本年十月横鎮祕第一八三
號ヲ以テ上申設置候并目下御詮議中、義
ト、存度得共右ハ官制ニ因決ニ急速御決
裁ノ運ニ至ラサル裁ト存度果ニテ急速御達
非相成ニ於テハ實際今日、在テ困難シ極メ
候事、實ニ付過般龍驤教負二等兵曲定
負ノ相當者ヲ得ル迄ハ上級者ヲ以テ一時補
充ノ上申ニ對シ御意見見付候ハ以テ御返却、次
第モ有之候得共三等主帳、我ハ目下二拾毫
右ノ欠負ニテ順次補充スヘキ下級者モ亦不足
ニシテ兵曲日比ニ無之、前陳、如ク夥多、欠負

二六

二六

二六

二付如何トモ繰合セ、途相付カス差支、右度故横
 鎮祕第一ニ對シ、何分御裁定有之、右迄現
 今焦眉ノ急ヲ補フノ方法モ、尚未篤ト取調、
 得其現負ナキヲ以テ、手配到底不相立然ルニ一
 二等主帳ニモ、余負ハ無之、僅得其比、擧合、際
 ニテハ、他ノ方法無之、右度、付假令ハ、二等主帳ニ名
 ノ定負中ヨリ、右名ヲ欠キ、三等主帳、或名、欠負
 ノ處へ補充スル如キ、割合ヲ以テ、一時補充、致度之
 カ、結果トシテ、二等主帳、欠負ノ、擧合、右、
 主帳ヲ以テ補充セシムル、外、與之、右、條、右、特
 別、御詮議、相成、様、御取計、有之、度、此、段、急
 事、及、御照會、度、也

明治三十五年十一月十日

赤松横須賀鎮守府司令長官

伊東海軍省第一局長殿

海
軍

0303

主帳ノ採用方及鎮守府右廳上等主帳
主帳ニ書記混用ノ義ニ付上申

海軍主帳厨夫缺乏ノ折柄本年志願兵ノ募
集モ半数ニシテ補充員ニ充ツルモ練習五等卒モ
亦不足ナリ之等ハ練習兵ニシテ乗艦セシムルニ至ラ
ズ本年三等主帳ニ任用セシハ僅々壹名ニ過キス三
等主帳ノ缺員ハ貳拾名ノ多キニ達シ今後三四
年間ハ下士補充ノ厨夫ハ本年ノ任用員數ヨリ
多數超越スルノ見込モ相立タズ貳拾名ノ缺員ニ
充ツルノ配置目下實ニ困難ノ極ニ達シ居候依テ任
用方法ニ付キ考ルニ今ヤ教育スル處ノ筆記計算

二

三

割烹調理兼帶ノ主意ハ至極簡易輕便ノ如リニ
候得共二十二年達第百八十三号厨宰割烹手ノ文
字ヲ删除シ主帳之ヲ掌ルノ治定以來實際履行
ニ徴スルニ敢テ簡易輕便ニアラス却テ不便ヲ感スル
解少ナラス夫レ筆記計算簿記ニ長ミ割烹調理
献立ニ熟スルカ如キ両全ノ技能ヲ得ルモノハ容易ナラ
ス僅カノ服役年限内ニ右両全多ク業ヲ熟知セムル
素ヨリ學術的ニ據ルト云ル實地經驗ニ因ラサハ活
用ニ乏シキハ論ヲ俟タス割烹ニ長スルモノ、事務不練
ナルハ一般ノ常態ナリ一朝授業ノ學術其効ヲ奏スヘ
キニアラス況ンヤ現今主帳ノ如キ旧艦内教授筆記
ハ庶務ニ旧厨宰割烹ハ賄方ニ旧警吏ハ監護長
若クハ筆記ト稍其位置異リ強テ之ヲ左右交換

執務セシメシカ事務擧ガラス波滯ヲ來タスハ勿論ノ
コトニシテ寧口筆記割烹ノ職ヲ分テ教育方法ヲ設
ケ其職ヲ異ニスルノ得策ナルヲ覺ユ因テ右ニ區分
シ臨時主帳補缺徵募ノ御詮議可然見上候
是以テ容易ナラス目下ノ急ヲ補フノ主論ニアラスト
竊ル今後服役満期等ノ為ノ年々尚不足ヲ増加
スルアルモ現今ノ方法ニシテ下士ニ任用スヘキ主計学
校ヲ卒業セシ人負ハ二十四年ニ等厨夫六名本年
進級資格ヲ得テ下士ニ任セシモノ内一人ニシテ他ハ資格
ヲ有セス又本年ニ於テ卒業セシ一等厨夫三名ニ過キ
不如斯實例ニ付テ教育方法ヲ改正セラレ筆記割
烹ノ職ヲ各別ニ設ケラレ又コト切望ニ耐ヘス候右實
際ノ模様ヲ電覽ニ供シ御詮議ヲ仰キ尚貳拾名

一
景

一
景

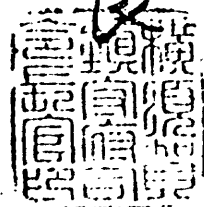
0306

主帳缺員ニ對シ各廳勤務ノ主帳ニ関シ急劇御
 詮議ヲ仰リノ主意左ニ陳仕候鎮守府主計部
 監獄課監護長ノ職ヲ執ル者ハ在監人ノ起居眠食
 勤性ヲ監守シ常ニ其役業タル兵役若リハ軍用ニ適
 切ナル諸運動ヲ爲サシムルノ職務ナルカ故ニ現今ノ如ク
 主帳ヲ以テ補充スルハ不適當ナラシ過ル七月廿一日横鎮
 祕第一三六号ヲ以テ上申致置候通り監獄課監護
 長ハ兵曹ヲシテ此職ニ當ラシムル方因人取締上ハ勿論
 其職務執行ニ在テモ亦至当ノ義ト見認候所モ
 下士ハ海上勤務陸上勤務ノ區別ニ依リ俸年ニ長短
 ヲリ進級條例ニ関涉スルヲ以テ新陳交代轉業セシメ
 艦務艦則ニ習熟セシメサルヲ得ス然ルニ陸廳勤務ノ
 主帳ニ在テハ書記ヨリ官高級ニ在ルヲ以テ事務ヲ

掌理セシムルニモ書記ノ上席ニヤリテ分掌ノ責任重
キヲ負ヒ擔當之レカ處理ヲ爲スノ処長日月ヲ経過シ
稍其整理ヲ熟知シ漸ク完全ナラシメトスルノ場合
ニ至リ艦團隊等へ新陳交替轉勤セシメサルヲ得ス上席
ニ在リテ擔當セシ分掌事務ハ恰モ撙リノ度リタルカ如
ク新タニ上席ノ置位ヲ台ル處ノ主帳ハ不制レノ爲ソ
自然其執ル處拂ラス事務濃滞遅緩ヲ來タスハ
勢ヒ免ヤレザル所ナリ又本府各廳應知港轉ニ於テ強テ
主帳ノ定員ヲ置リノ必要ハ之レナク様存セラレ且目下
主帳多數不足シ艦團隊ノ缺員補充ノ道ナク困
難ノ場合ニ付漸次鎮守府各廳勤務ノ主帳ヲ轉業
セシメ跡補缺ハ書記ヲ以テスルニ於テハ艦團隊主帳
定員モ補充シ得ヘリ各廳ノ定員モ補填シ易ク

從テ事務敏捷ナラシムル義ト認候間二十三年勅令第
二百三十七号鎮守府定員中知港事廳ニ充ツル
主帳ノ外ハ上等主帳主帳ノ職ニ書記ヲ以テ混用
補充スルコトヲ得ルノ備考ヲ追加セラレ二十三年達
第四百八号准士官下士卒定員職別表中監獄
課監護長ノ職ニ充ツヘキ主帳七名ヲ減シ代ルニ兵曹
増加相成様御詮議相成度此段上申候也
明治二十五年十月廿四日

海軍大臣子爵仁禮景範殿
横須賀鎮守府司令長官男爵赤松則良



0309

2. 今更

續攻繆第
城
号

大正
九年
五月
二十
日

言

迎



香港
二月廿日

橫須賀

少學區志公在病中書在定
久病初加在病中書在定

少車匠

一

李之

[illegible]

攻 下 能
 立 文 書 館
 Japan Center for Asian
 http://www.ja

香港
二月廿日

定年
七十一
元新
子之
世長
子之
子之
子之

[illegible]

0311

和名長白丸長多跡中道中
 支る幸とと良あり海定人
 中標正に上申出也
 白虎五年三月
 校のまの男及長多跡中道中
 校のまの男及長多跡中道中
 校のまの男及長多跡中道中

0312

十月

十六日進達

機攻秘第一 九哥

參謀長

松書

生

庚子年七月廿四日

[illegible]

一 乃 子 臣

志名

あきつゝしすのち

多入之漸々痛むを、
視時二ふふと青

と
山
大
浪
子
支
る
ち
か
ふ
ゆ
其
ふ
み
お
り
し

人々皆曰く其の此の土中一竹也

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय

[illegible][illegible]

海軍

1/3

第一三二號

第一課

月令月令雷隊隊員經定為中主計安士
名増負之取亦季一月日第一三三三二
以之雷申於當今改換新司令官定為増
加其和法止少主計似補生吉名和路名之
外之雷申一之其系以和負之其和極以和計
其之其以和以和以和以和以和以和以和以和

以和以和以和以和以和以和以和以和

雷隊隊員上原主計和路司令官七五

和路司令官長主計和路

第一三二號

明治三十九年一月十八日

伍世保水雷隊攻擊部定員中主計官一名増員

相成度票中

伍世保水雷隊攻擊部定員中主計官一名増員
相成度票別紙ノ通リ該部司令ヲ商申スルニ
右ノ實際除必要ノ義ト被存ス條以増員相成ス
係致度以該商中スル也

明治三十九年一月十八日

伍世保鎮中府司令官男爵井上良馨

海軍大臣子爵仁禮景範



本部定員中主計一名増員相成度稟申

水部主計部主官ハ主計長シル大主計一名ノ定員ニ有之若シテ今職
責名ニテ其所掌事務ヲ処辨可基致義ニ有之其処目下ニ如
ク所属水雷艇数月ニ涉リ本部所在地外ニ出航致居其場合
ハ勿論將來トモ水雷艇出航ニ際シテハ主計ヲ乗艇為致其
必用ノ場合可有之然ルニ單ニ一名ノ定員シル主計長ヲ其必用
毎ニ乗艇為致其ハ本部ニ在リテ今職所掌事務ヲ取扱上其
際出来得可カラサル義ニ有之若シ又々水雷艇出航ニ際出
納官吏ヲ乗艇不為致其ハ出航事務整理上ノ都合ハ勿論
現行會計法規ニ照スハ已ムヲ得ズ其規ニ涉リノ取扱ヲナサ
ハ可カラサルノ不始末相起リ其次第ニ付何卒本部定員職



一月五日
野中

0316

別表中主計長、外出納官吏、資格ヲ有スル主計一任法増
員相成採致度歟段及稟申其也

明治廿六年一月十七日

佐世保水雷隊攻撃部司令上村正之丞

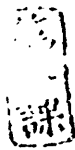
佐世保鎮守府司令長官岡田上良殿

0317

北



吳鎮第一六〇號



別紙千代田艦長上申水兵十二名増加義
實際必要之候間御詮議相成度此
段上申仕候也

明治二十五年五月二十五日

吳鎮守府司令長官代理

海軍少將山崎景則



海軍大臣子爵樺山資紀殿

水兵十二名定員中、御増加相成度上申

本艦十二拇砲彈丸ハ一門ニ付二百発宛御備付相成居候
處之ニ對スル藥莢ハ火藥庫ノ狭小ナル為ノ百発丈ノ準
備^{有之}候得バ一部急速ノ射撃ヲナス場合ニ於テ全速度ニテ
発射スルハ一分時間ニ十発ナルヲ以テ僅カニ十分時ニシテ発射
ヲ止メザルヲ得ズ試ニ一分間七発ノ割合ヲ以テ四千米突ノ巨
砲ヨリ敵ノ艦隊^(六艘ヨリ成ル)ヲ射撃セシメスルニ彼我一時間十
節ヲ去ルトノ六分時ニシテ之レト相合シ九分ニシテ其殿艦遭ヒ
悉ク之ヲ射撃シ相去テ彈着巨砲外ニ去ル迄ハ少クモ十五
分ヲ要スベシ此ニ至ラバ百発ノ藥莢ハ已ニ之ヲ消費シ尽スヲ
以テ敵艦再ビ回轉シ来ルモ已ニ空シク射撃ヲ止メ傍觀スルノ

止ムナキニ至ルベシ此場合ニ於テ一旦射撃シタル藥莢ヲ修理シ
及ビ裝填ニ從事スルモノアリテ彈藥ノ供給絶ヘズンバ発射ヲ
連続シテ充分速射砲ノ効ヲ奏スベクト被存候得共目下
ノ定員ニテハ之レ等ニ從事スベキ余裕ノ人員無之己ニ今更
大演習ニ於テ実験上不便ヲ感シ候之ヲ以テ之ヲ見レバ実戦
ノ場合ニ於テハ彈藥ノ供給ヲ連続セシムルハ必要欠リベカラザル
モノ被存候条定員中右ニ從事セシムル爲メ水兵十二名御
増加相成度此段上申候也

明治三十五年五月二十日

千代田艦長 千住成貞

呉鎮守府司令長官代理
海軍少將 山崎景則 殿

部長

第二課

第二課

矢野

第一課

第一課

横鎮秘第一〇八號

出羽

0321

水雷艇定員ノ義ニ付意見上申

麾下水雷艇追々増加可相成ニ付テハ常備艇
 豫省艇ノ區別被相定常備内ヲ以テ練習
 用ニ被充行御趣意ニ候哉又ハ若干艇ヲ分
 之レヲ以テ一艇隊ノ編制法方被相定候欤何
 レニ定メラルモトスルモ從來ノ如ク各艇毎ニ定
 員被相定候テハ後來不都合ヲ醸生スルハ
 勿論經濟上ニ於テモ不可然義ト存候余右ニ
 要スル人員ハ都テ攻撃部ノ定員トシ出艇
 ノ際攻撃部司令ノ指揮ヲ以テ乗艇ノ事ニ
 御規定相成候ハ都合可然ト思料仕候

二条 臣

賜



上申

付テハ常備艇

内ヲ以テ練習

若干艇ヲ分テ

相定候欤何

各艇毎ニ定

定候事

御意

奉

知

奉

知

奉

0321

水雷艇ハ常備隊ニ區別シ平常

常備艇ヲ以テ攻撃部員ノ訓練ニ充

テラルハ趣意ニ及ビ毎々即チ若

干艇ヲ以テ常ニ一艇隊編制ノ方法

ニ酌成ス

明治三十五年八月二日

海軍省長



0323

0322

法ナンバー記入ミスの為

本頁(法No 〇〇〇〇)を撮影する

平成 20 年 10 月 22 日

リコーテクノシステムズ株式会社

隈 元 雄 (一発)



申
 有テハ常備艇
 ヲ以テ練習
 若干艇ヲ分テ
 相定候欲何
 各艇毎ニ定
 ヲ醸生スルハ
 存候余右ニ
 人員トシ出艇
 乗艇ノ事ニ
 ト思料仕候

0321

各該部、符箋一通、水雷艇、若干艘ハ豫備
 艇ニ編入セラルトス其ノ人員ハ常ニ攻撃部ニ定
 置シ常備艇ヲ以テ訓練セシメラル、豫定ニ候依
 照即意見通り、以テ實施ヲ相成儀、以テ下等及
 以迄也

八月八日

伊東才一馬長

0324

条雋ト御詮議ノ上孰レカ御確定相成候様
致度此段意見上申候也
但本府於テハ若干艇ヲ以テ一艇隊ヲ御編
制相成候方實際上年利ト見込候此段
申候也

明治廿五年七月廿八日

海軍大臣子爵樺山資紀殿
横須賀鎮守府司令長官男爵赤松則良



0325

主事

淨寫

發付

校合

月 日

二十五年十月五日

主務

立案者

大臣

次官

第一局長



第一課長

(出羽)

案

五等卒ノ教育課程ヲ終ヘ四等卒ニ進級シ目下
補充員トシテ在團ノ者等ハ艦船ニ配乗實
地ニ使用訓練不為致候テハ僅力ニ四ヶ年ノ役

毎

巨

0326

海軍

務ニ服スル徴兵ノ如キニ至リテハ其服役年數、
過半ヲ陸上ニ消費セシムル場合ニ至リ後來不
都合不勘懺修
ル補充員ハ其府王位貴ノ監
セシムルハキ早ニ以テ上級軍人ニ補充セシメ
天ノ方針ヲ取ルヘシ

及内訓

大臣

省訓令候

三

何

0329 0328 0327

務ニ服スル徴兵ノ如キニ至リテハ其服役年數、
過半ヲ陸上ニ消費セシムル場合ニ至リ後來不
補充員ハ其府在々精ノ艦船ニ繰合配乗
メラレ然シテ定員超過トナル今ハ上級者
ヲ入團セシムルコトニ被取計度此者及内訓
候也

明治二十五年十月 日

海軍大臣

三鎮守府司令長官アテ
府艦隊司令長官へモ其旨訓令候
ニ付テハ此旨心得テルヘシ

0329 0328 0327

海軍

務ニ服スル徴兵ノ如キニ至リテハ其服役年数、
過半ヲ陸上ニ消費セシムル場合ニ至リ後來不
事ト認候就テハ此際四等卒ヲ
ル補充員ハ其府在々籍ノ艦船ニ繰合配乗
メラレ然シテ定員超過トナル今ハ上級者
ヲ入團セシムルコトニ被取計度此者ハ訓令
候也

明治二十五年十月 日

海軍大臣

三鎮守府司會長官アテ
府艦隊司會長官ヘモ其旨訓令候
ニ付テハ此旨心得テルヘシ

0329 0328 0327

案

別紙ノ通各鎮守府司令長官へ及訓令
候二付テ八麻毛下艦船一毛繰合配乗方被
取計悉此旨及内訓候也

明治三十五年十月五日

海軍大臣

常備艦隊司令長官アテ

五

三

0331-0330

案

別紙ノ通各鎮守府司令長官へ及訓令
候^{ニ付テハ}麻毛下艦船一毛繰合配^被

取計度此旨^{訓令候也}
明治二十五年十月^日

海軍大臣

常備艦隊司令長官^{アテ}

0331 0330

0332

諸 目

明治三十二年十月九日
河島樗牛筆談集卷之十
津東海軍省より
及

0334

25
1/5

第二表乙

明治廿五年 一月一日豫備役兵員調 横濱鎮守府海兵團徴募官 小林春三

官職名	府縣		兵曹	軍樂手	機關手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳水	兵	軍樂生	火夫	木工	鍛冶	看護夫	厨夫
	府	縣														
北海道																
東京			四	一三	四	三		二	六	三〇	一	八	二		一	七
神奈川			五		六	三	三		六	三二	一	一	二	三		三
新潟				一	一				一	五二		八		一		
埼玉										三		一				
群馬										一						
千葉									二	四六		二	二	一		二
茨城										三三		二				
栃木									一	三九		一		一		二
三重			一	一		一			一	三		一				
愛知			一	一					一	三		一				
静岡			一						一	四〇		三				
山梨										一						
岐阜									一	三						
長野									一	一					一	一
富山			一	一					一	三		三				
石川									一	一〇						
福井									一	二						
青森									一	二						
山形									一	九						
秋田										七						
山口			一													
徳島			三													
合計			三	二〇	二	七	三	五	二〇	四三	一	三二	四	六	三	三五

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
二信号手信号兵ハ豫備員ナキヲ以テ其棟ヲ省畧セリ

明治廿五年一月一日豫備役兵員調査

吳鎮守府

海兵團徴募官 稻生 震辰

官職名	兵曹	機關手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳水	兵火	夫木	工鍛	治看病	夫厨	夫
京都府						大						
大阪府						一七	四					
兵庫縣						七五	二一					
奈良縣						二						
滋賀縣						二						
石川縣	二					三	三一	二一				
富山縣						七						
福井縣						一七	一					
島根縣						一	八					
鳥取縣						一						
岡山縣	一	一				二	二一	四				
廣島縣	二					三	三	一				
山口縣	六	二				一	八	三一				二
和歌山縣	三	一				九	五					
徳島縣						二						
高知縣						一	一四					
香川縣						一	四	一				
愛媛縣						二	五	四				
合計	一四	大	三	二	七	三四	四二	二	三			二

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
 本官区ニ於テ豫備役編入者共費ニ五人主帳ニ二人水矢六人火夫ニ十二人アリ共費二人
 主帳一人水矢十三人火夫二人他官区ニ於テ豫備役編入者共費ニ五人主帳ニ二人水矢六人火夫ニ十二人アリ共費二人
 テ他官区ニ於テ豫備役編入者共費ニ五人主帳ニ二人水矢六人火夫ニ十二人アリ共費二人
 本官区ニ在籍ノ看護手一人他官区ニ在籍ノ看護手一人

25
 〃
 〃
 〃

信濃甲 二三号

南

明治廿五年二月一日豫備役兵員調任世保鎮守府海兵團徵募官加治木栄介

縣官 縣名 兵曹 櫓手 船匠手 鍛冶手 看病手 主帳 小兵 火夫 木工 鍛冶

長崎縣 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

佐賀縣 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

熊本縣 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

福屋縣 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

大分縣 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

宮崎縣 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

鹿嶋縣 八 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一

合計 一三二二三二二三 一六九 一八六 二 一

0337

明治廿五年二月一日豫備役兵員調査表
鎮守府海兵團徵募官 鈴木大三郎 鈴木

官職名	兵曹	軍樂手	機關手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳	水兵	軍樂生	火夫	木工	鍛冶	看護夫	厨夫
北海道														
東京	四	三	四	三		二	六	三〇	一	八	二		一	七
神奈川	五		六	三	三		六	三二	一	一	二	四		四
新潟		一	一				一	五		八		一		
埼玉							三	三					一	
群馬							一	一						
千葉						二	二	二				一		二
茨城							三	三						
栃木				一			二	二						
三重	一	一				一	三	九	一			一		二
愛知	一	一				一	三	四	一					
静岡	一					一	四	〇	三					
山梨							一	一						
岐阜						一	三	一						
長野							一	一					一	一
官城							三	三						
福島	一	一				一	一	〇						
岩手							二	四						
青森							二	一						
山形						一	九	一		一				
秋田							七	一						
山口		一												
鹿児島		三												
合計	一三	二〇	二二	七	三	五	二〇	四三	一	三二	四	一七	三	三六

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
一信号手信号兵ハ豫備員ナキヲ以テ其擲ヲ省畧セリ

255
11
12

第二表乙

明治廿五年二月一日豫備役兵員調吳鎮守府

海兵團徵募官 船生 辰辰也

府縣	官職名	兵	曹	機關手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳	水兵	火夫	木工	鍛冶	看護	病夫	厨	夫
京都府									六							
大阪府									一七							
兵庫縣									七五							
奈良縣									二							
滋賀縣									二							
石川縣									三一							
富山縣									七							
福井縣									一六							
島根縣									一九							
鳥取縣									八							
岡山縣									二三							
廣島縣									三三							
山口縣									二一							
和歌縣									一四							
徳島縣									二〇							
高知縣									一四							
香川縣									一四							
愛媛縣									二五							
合計	二〇	七	三	二	八	三四	七	四	四	六	三	三	三	二	二	二

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
 本官区ニ於テ豫備役兵員者水兵一十人木工一人アムモ水兵十人
 他官区ノ者ナシヨリ送テ本官区ノ者ニシテ他官区ニ於テ
 編入ノ上送テ精シ来ルハ當ニ六人檢閲手ニ又主帳一人水兵
 六人火夫二人アリ

年度	職務勉勵品行 職務勉勵 技藝熟達 品行方正 職務勉勵 職務勉勵 技藝熟達 品行方正 合計	人
十八年	水兵 九九	水兵 一
十九年	水兵 一〇一	水兵 一
二十年	水兵 一三九 火夫 九 水兵 四一 火夫 一 水兵 二 火夫 一 水兵 七 火夫 一 水兵 四 火夫 五 水兵 七 火夫 一 水兵 六 火夫 三 水兵 一三〇	水兵 一 水兵 八 六〇
廿一年	水兵 七七 火夫 八 水兵 二 火夫 三 水兵 九 火夫 二 水兵 四〇 火夫 一 水兵 一 火夫 二 水兵 八 火夫 一 水兵 六 火夫 三 水兵 三二 火夫 七	水兵 四 五 六 七
合計	水兵 四六 火夫 一七 水兵 四三 火夫 四 水兵 三二 火夫 三 水兵 四八 火夫 一 水兵 四九 火夫 七 水兵 八 火夫 一 水兵 六八 火夫 一 水兵 三二 火夫 一 水兵 四七 火夫 一 水兵 一六	水兵 一 水兵 八 六〇

海軍

85 兵 多

第二表乙

明治廿五年三月一日豫備役兵員調 横濱鎮守府海兵團徴募官 鈴木大三郎 録

官職名	兵曹	軍樂手	機関手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳水	兵	軍樂生	火夫	木工	鍛冶	看護夫	厨夫
北海道							一	二		一				
東京	四	一三	四	三		二	六	三二	一	八	二		一	一八
神奈川	五		六	三	三		六	三二		一	二	四		六
新潟			一				一	五二		八		一		
埼玉							三	一					一	
群馬							一	一						
千葉							二	一		二		一		二
茨城							三	三		二				
栃木							二	二						
三重	一	一		一		一	三	九	一			一		二
愛知	一	一				一	三	三		二				
静岡	一					一	四	一		三				
山梨							一	一						
岐阜							二	三						
長野							一	一					一	一
富山	一	一				一	一	一						
石川							三	一						
福井							一	一						
青森							二	一						
山形						一	九	一		一				
秋田							七	一						
山口		一												
鹿児島		三												
合計	一三	二〇	二	七	三	五	二〇	四六	一	三二	四	七	三	三九

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
一信号手信号兵ハ豫備員ナキヲ以テ其欄ヲ省畧セリ

29
兵
印

第二表乙

明治廿五年三月一日豫備役兵員調 吳鎮守府 海兵團徵募官 箱生 虎也

府縣	官職名	兵	曹	機關手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳	水兵	火夫	木工	鍛冶	看護	病夫	厨	夫
京都府									六							
大阪府			一						一七	四						
兵庫縣		一	二						七五	一二			一			
奈良縣									二							
滋賀縣									二							
石川縣		二						三	三二	二一						
富山縣									七	一						
福井縣									一六	一						
島根縣								一	二〇							
鳥取縣							一		八							
岡山縣		一	一						三三	四			一			
廣島縣		五		一					三三	五三	一					
山口縣		六	二	一		一		三	二一	三一	二		一			二
和歌山縣		五	一	一					一五	六						
徳島縣									二	一						
高知縣								一	四							
香川縣									四	一						
愛媛縣									二五	四						
合計	二〇	七	三	二	八	三	一	四	四六	三	三					二

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
本管區ニ於テ豫備役編入者水兵三人火夫四人アルモ火夫四人ハ他管區ノ者ナルニヨリ送
籍ス

25
 1
 4
 6

第二表乙

明治廿五年四月一日豫備役兵員調
 横須賀鎮守府海兵團徵募官 鈴木大三郎 録

府縣	官職	兵曹	信號手	軍樂手	機關手	船匠手	鍛冶手	看護手	主帳水	兵信號兵	軍樂生	火夫	木工	鍛冶	看護	火夫
北海道									一							
東京		四	一三	三三				三	六	三	八	三	二		一	二
神奈川		五		七	三	三		一	七	三	一	二	二	四		六
新潟			一	一					一	五	九			一		
埼玉										三	一				一	
群馬										一						
千葉									二	六	二			一		二
茨城										四	一					
栃木									二	九					一	二
三重		一				一			一	三	一					
愛知		二	一					一	四	四	二					
静岡		一							一	三	三					
山梨										一						
岐阜									三	一						
長野									一						一	一
富山										三						
石川									一	一						
福井		一	一					一	一	一						
山形								一	九		一					
秋田									七							
山梨																
青森									二	四						
岩手									一	四						
宮城									三	三	三					
鹿角			三	一												
合計		一四	二〇	二二	七	三	七	二〇	四六	一	三	五	四	一七	三	四二

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ

28
公
分
人

佐衛門 第六号		明治廿五年三月一日豫備役兵員調佐世保鎮守府海兵團徵募官加治木栄久		縣名		官職名		兵曹		機関手		船匠手		鍛冶手		看護手		主帳		水兵		火夫		木工		鍛冶	
長寄縣																											
佐賀縣																											
熊本縣	二																										
福岡縣	一																										
鹿児島縣	八																										
大分縣																											
宮崎縣	二																										
合計	一三																										
	二																										
	二																										
	三																										
	二																										
	三																										
	一七																										
	〇三																										
	一一																										
	八三																										
	二																										
	一																										

65-
12
7

海兵團徵募官 箱生 震也



一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徵兵ハ朱書スヘシ
一兵曹ニ人水兵ニ人火夫三人他管ヨリ入籍ス
一水兵三人火夫三人豫備役編入未他管ニ送籍ス

25

佐賀甲第六十四号

明治五年四月一日豫備役兵員調佐世保鎮守府海兵團徵募官清水清

縣名官職名兵曹機関手祓直手鍛冶手看護手主帳水兵信号兵火夫木工鍛冶

長崎縣	佐賀縣	熊本縣	福岡縣	鹿児島縣	大分縣	宮崎縣	合計
		二	一	八		二	一三
				二			二
		二		一			三
	一		一				二
三	一	二	二	二	三	一	三
六	一	六	七	七	八	一	六
九							九
三			二			一	三
一	一	一	一	六	四	二	一
二							二
一		一		一			一

海軍省

23
2
4

山

一、

二九

02

一九

七

二

三
四

一七

二四
九五

•

•

•

—

•

· 22

3

•

15

1

湘
軍
省

佐渡甲第七九号

明治五年五月一日後備役兵員調 佐世保鎮守府海兵團徵募官清水清備

縣/職
名/名
水兵

長崎 六

佐賀 五

熊本 七

福岡 一〇

鹿児島 五

大分 四

宮崎 三

合計 四〇

中山

一〇

海軍省

0349

甲子

本自日現在後備軍
 不計口號
 明及送附
 了人受通
 利安

冲马一记

液軍

職方縣東京新鵲集談城朽木三重溪鰲山嶺長野憲城岩午青森山形計

職方縣東京新鵲集談城朽木三重溪鰲山嶺長野憲城岩午青森山形計

二	一	二	一	一	九
等					
水					
矣					

三
華
水
女

五	一六七二九六九一一一二四二二三八十
五	
六	
四	

合計	五	六	四	一	八	八	二	三	七	〇	一	一	一	二	五	二	二	九	七
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

海軍

85
45

第二表乙

明治廿九年 九月一日豫備役兵員調 吳鎮守府 海兵團徵募官 貞崎 宏 記

府縣	官職	兵	豐信	号手	軍樂	手機	關手	掃匠	手鍛	治手	看護	手主	輟水	兵信	号兵	軍樂	生火	夫木	工鍛	治看	病夫	厨夫
京都																						
大坂																						
兵庫																						
滋賀																						
奈良																						
石川																						
富山																						
福井																						
島根																						
島取																						
岡山																						
廣島																						
山口																						
和歌山																						
徳島																						
高知																						
安媛																						
香川																						
合計																						

一豫備役兵員中志願兵ハ墨書シ徴兵ハ朱書スヘシ
 一京都水兵三人大坂水兵三人火夫一人兵庫水兵十六人滋賀水兵一人富山水兵三人福井水兵三人島根水兵一人
 一徳島水兵一人岡山水兵一人廣島水兵九人山口水兵六人和歌山水兵一人徳島水兵七人高知水兵五人安媛水兵三人
 一奈良水兵一人火夫一人火工一人看護夫一人豫備役編入者凡四管者付送籍マ

一兵庫水兵一人兵庫水兵六人石川火夫一人看護夫一人福井水兵一人比管ヨリ岡山水兵三人看護夫一人廣島火夫一人
 一人高知水兵一人香川水兵一人火夫一人看護夫一人豫備役編入者
 一徴兵水兵十四人豫備役編入ノ欄ニ凡ミ内三人ハ後備役編入者ナリ
 一志願兵水兵二人火夫一人火工一人看護夫一人豫備役編入者凡四管者付送籍マ

出羽

興徴書第五三〇号ニ

本
後
光
げ
の
要
今
友
友

才一局才一課

才

0353

[illegible]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

大正

ノ

明治

ノ

0356

横鎮秘第一八〇號ノ乙



不品行者免役之義付再應上申

海軍五等尉夫大草敬吉

右ハ品行不良素行脩マラス軍統風紀ヲ紊シ
他ノ善良者ノ妨害トナリ到底軍人タル實ナキ
者付免役ノ義本年十月横鎮秘第一八〇號
以テ上申致置候處其旨甚モ改悛ノ情ナリ
益不良ニ陥リ得共五等卒教育規則ニ依リ
卒業致シ四等尉夫ニ進級資格ヲ備ヘ候付
ハ進級セシメサルヲ得サルノ場合ニ有然共一方
前記之通り品行不良ニシテ軍統風紀ヲ紊シ
軍人タル實ナキ而巳ナラス他ノ妨害トナリ進級

二葉 三

0357

須 軍

資格ノ位置ヲ缺クモノニシテ孰シ氏之カ取扱上取
捨ニ差支居候間是表キニ上申ノ通免役ノ義特
ニ至急御允許相成度且ツ本年六月横鎮祕弟
五七號ノニ及同号ノニテ以テ東第一局長ハ通
牒及置度技藝拙劣品行不正屢々刑罰ニ
觸レ改悛ノ情ナキ人者モ併セテ免役ノ義此際
御詮議相成様致度此段再應上申度也
明治三十五年十二月九日

横須賀鎮守府司令長官代理

海軍少將 福島 敬典



海軍大臣子爵 仁禮 景範 殿

0358

全	老歿兵	徵募兵	老歿兵	全	全	全	全	全	全	全	老歿兵	徵募兵	老歿兵
廿七年四月	廿九年六月	廿九年十一月	廿九年二月	廿九年五月	廿九年七月	廿九年十二月	廿九年十二月	廿九年六月	廿八年五月	廿九年七月	廿六年七月	廿五年十二月	廿九年八月
三回	二回	二回	一回	二回	二回	ナシ	三回	一回	三回	一回	二回	一回	一回
六回	九回	一回	ナシ	六回	二回	三回	一回	ナシ	三回	八回	十回	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	廿九年四月	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	廿九年四月	ナシ	ナシ
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
山田清三郎	立川安市	堀井栄藏	小野駒次郎	高木佐市	戸高茂志	和島六助	二藤利平	林虎吉	木場金太郎	藤江判平	山本彦太郎	石黒惣藏	義兵

0361

全	全	老
荒年七月	廿五年五月	廿五年五月
ナシ	一面	一面
五	五	六
間	間	間
ナシ	ナシ	ナシ

西	伊	花	海
岡	東	野	
忠	清	重	軍
吉	貞	市	

0362